

# 兵庫歴史探訪

伊丹市は、実はNHK大河ドラマ「麒麟がくる」の主人公・明智光秀と非常に縁深いのですが、知る人ぞ知る、なのではと思えます。そこで新しい説も紹介したく、今回はこのテーマにしました。

《有岡城を調略により攻略したのは明智光秀!?》

JR伊丹駅を降りると、そこはもう、かつての「有岡城」です。織田信長に任せ、そして離反した摂津守荒木村重が、天正2(1574)年に伊丹氏を追放して入城し、改名しました。

伊丹は摂津国の中心で、古代から山陽道や有馬道が通り、交通の要衝だったことから、信長



現在も残る有岡城の石垣—伊丹市

## 伊丹・有岡城攻略 新説も

が京より西へ勢力を広げる上で、配下の武将がこの地を治めることは必要だったことでしょう。有岡城は伊丹台地の東端に位置します。城の東は段丘崖で、北、西、南には砦を配置し、堀と土塁をめぐらし、町を守りました。

さて、城主の村重の嫡男、村次に嫁いだのが光秀の長女でした。次女(玉川ガラシャ)は細川忠興に、三女は信長の甥、織田(津田) 信澄に嫁いでいます。

同6(1578)年正月元旦、信長への新年の挨拶のため安土城に多くの家臣が出陣します。松井友閑が茶頭を務める茶会に滝川一益、細川藤孝、光秀、村重、羽柴(豊臣)秀吉ら12人が集まっていました。この

時は、村重も信長が信頼を寄せた家臣だったことがうかがえます。

しかし村重は同年10月、信長から離反します。同月21日、信長は村重離反を知り、光秀と友閑、万見重元を遣わせますが、村重は安土出仕を拒否。翌月3日に再度、光秀、友閑、秀吉を派遣しますが、村重は応じません。以後、有岡城で戦いが続きます。

これまでに有岡城は、翌7年10月に一益の調略により攻略した、というのが定説とされてきました。

しかし、《村重の嫡子・村次に娘が嫁いでいる所縁により、明智光秀が調略した》とする説を、天理大の天野忠幸准教授が、昨年度末に刊行した伊丹市立博物館史料集13「伊丹城(有岡城)跡—主郭部の発掘調査を中心として—」にて発表。天野先生は当時書かれた日記に「光秀が有岡城明け渡しに努め、娘を受け取った」という趣旨の記載を見いだし、《有岡城を接収したのは、光秀の娘婿である信澄であるので、光秀の関与は間違いないであろう》と結論づけました。

史料集13は博物館で販売中です。さて、伊丹にも麒麟ははてくれるかな?

(伊丹市教育委員会文化財担当 主幹 中畔明日香)

